



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員数***人

医師 155人

コメディカル 571人

管理栄養士派遣登録数 37人

《目次》

中野忠澄～…Page 1

研究会他のお知らせ……………Page 2, 3, 4

会員の皆様へ……………別紙

新年明けましておめでとうございます

初夢

(財)東京都保健医療公社多摩北部医療センター内分科
当研究会 理事 中野忠澄

2008年、平成20年が明けました。今年は何のような年になるのでしょうか。そしてどのような年にしたいと思いますか？それぞれの立場で、それぞれの役割に応じて、精一杯やっていきたいものです。

ところで昨年秋、京都東山山麓で、第4回USA-Japan Meeting on Diabetes (糖尿病と合併症の予防に関する日米会議2007)が、アメリカはボストンのジョスリン糖尿病センターからのメンバー数人を迎えて100人ほどの糖尿病教育に関心を持つ日本の医療者が集って、一日半にわたって開かれました。

その会の冒頭において、ロールプレイによるケースプレゼンテーションがありました。英語で行われたその劇に出演するように言われた私は四苦八苦したもの何とかが終わることができました。

この劇では、パッドクターを富山大学の小林 正先生が迫力満点で演じられ、私はグッドドクターを演じることになりました。

そこで、患者さんを演じたのがSPさんでした。SPさんとは、Simulated patient (模擬患者)の略称です。この状況では、SPさんは、医療従事者が患者さんに対してどのように振舞うかによって、患者さんの受ける印象なり気持ちなどがどのように変わっていくものなのかを、わかりやすい表情と態度で示しながら演じます。そのことで、参加者は、医療者の接遇態度がいかに患者さんの行動に大きな影響をもたらすのかを目の当たりにすることになります。つまり、医療者の行動のあり方が患者教育上いかに重要な意味を持つことがいやがうえにも認識せざるを得なくなります。

私は、今日の糖尿病療養指導上、医療者側にもし足りないところがあるとすれば、単なる動機づけではなく、おそらくこういった面ではないかと思うのです。

療養指導上、知識の重要性は言うまでもないことですが、痛みを抱えた患者さんの気持ちをしっかりと受け止め、信頼を得るような接し方が望まれます。そこで、このSPの手法が、直接患者教育のためではなく、われわれ医療者にこそ必要であろうと痛感したのが、今回の日米会議のひとつの収穫でした。おそらく、SPの手法を我々自身の研鑽のために取り入れることは、今後の糖尿病教育上ひとつのブレークスルーとなる、と私が叫んでいるのが、2008年の初夢となりました。

皆さんはどんな初夢を見ましたか？



研修会等の実施報告

第42回例会

平成20年11月23日(金)東京農工大小金井キャンパスに おいて実施されました

第42回例会のご報告

当研究会理事 東京都立府中病院 辻野元祥

11月23日東京農工大学において第42回例会が開催され、風の冷たい三連休初日という悪条件にも関わらず※※※※名の御参加をいただきました。今回は”糖尿病治療のエッセンス”のツボと題し、西村先生の総司会で診療所や糖尿病非専門の先生方に糖尿病診療における初期評価および初期治療について、ご一緒に考えていただくことを目的といたしました。



初診時のポイントを辻野が担当した後、食事療法・運動療法は西村先生のご担当で、患者さんに受け入れてもらえるための指導方法をわかりやすく解説いただきました。経口血糖降下薬を片山先生に、インスリン治療を住友先生にご担当をいただき、わかりやすく解説いただきました。

専門医と連携をとるタイミングについて調先生からお話いただいた後、中野先生の司会で総合討論となりました。名司会の下、普段教科書には明示されていません。しかし、重要と思われる様々な点について活発な意見交換がなされ、有意義な会となりました。

熱い議論を終りホールを出ると武蔵野の面影のキャンパスが我々の火照った頬を冷やしある種郷愁を胸に満ち足りた気持ちで帰路につきました。

講師を務めていただいた先生方、寒風の中、道案内など会の設営にご協力いただいた各社のMRの皆様方、そして事務局の皆様方にはこの場を借りて心から御礼申し上げます。



西村 晴美先生の講演



各先生方の意見交換

第6回症例検討会

平成19年11月29日(木)立川女性総合センターアイム において実施されました。

第6回症例検討会報告

公立昭和病院 管理栄養士 浦部康雄

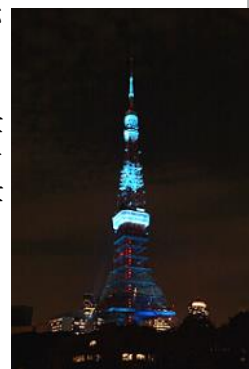
11月29日(木)に西東京CDE研究会、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会共催による第6回症例検討会が開催され21名の方が参加されました。

当日は看護師、薬剤師、管理栄養士、医療事務の方々が4つのグループに分かれて、「働き盛りの2型糖尿病患者 45歳男性」についてグループディスカッション形式で症例検討を行ないました。

後半は各グループの代表者による療養指導上のポイントと具体的な指導計画の発表をしていただき、活発な意見交換が行なわれました。発表にあとに、総合新川橋病院 糖尿病代謝内科部長 調 進一郎先生より各グループの発表についてコメントをいただきました。普段の食事や外食、アルコールや運動などに関する療養指導のエッセンスについて、調先生の患者さんに負担感を与えない、具体的で分かり易いお話をお伺いすることができ、参加者は熱心に勉強することができました。

世界糖尿病デー ロゴ入り ジャンパーを抽選で差し上げます。

国際連合(国連)は、IDF(国際糖尿病連合:現在約150カ国が加盟)が要請してきた「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を2006年12月20日に国連総会議で採択しました。同時にインスリンの発見者であるフレディク・バンティングの生誕日の11月14日を「世界糖尿病デー」に指定し、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進することを呼びかけました。今年の11月14日世界糖尿病デーの記念イベントとして世界各地の著名な建造物等をテーマカラーであるブルーカラーのライトアップかされました。当研究会理事長の貴田岡先生も東京タワーのブルーライトアップ点灯式に参列をしました。



ノボノルディスクファーマー様より世界糖尿病デーのロゴが入ったジャンパー

(左写真)10着を提供戴きました。当研究会員各関係者の皆様に抽選でお1人1着、計10名の方に差し上げます。

ハガキに氏名(会員の方は会員番号)・年齢・住所・世界糖尿病デージャンパー希望と書いて1月21日消印有効

〒185-0012国分寺市本町3-10-22オリエントプラザ402
西東京臨床糖尿病研究会事務局まで、ご応募下さい。



研究会からのお知らせ

◆ 直接事業 ◇ 間接事業



◇ 第87回実践栄養指導勉強会

開催日時：平成20年1月15日（火） 時間 18:45～20:15

場 所：緑風荘病院併設老人介護保険施設グリーンボイス1階ディールーム

西武多摩湖線 八坂駅下車1分（東村山市萩山町3-31-1）

会 費：会員無料 非会員500円

テーマ：『栄養士の活動、新制度への取り組み—特定保健制度を中心に—』

講演：お茶の水女子大学臨床栄養学研究室准教授

東京都栄養士会会長 池本 真二先生

★西東京糖尿病療養指導士 認定更新のための研修単位2単位

◆ 第5回東京インスリン治療研究会

開催日時：平成20年2月2日（土） 16:00から19:20

場 所：ザ・クレストホテル立川 「ふじの間」

立川市錦町1-12-1 TEL 042-521-1111

参加費：医師1,000円 医師以外無料

テーマ：西東京地域における糖尿病治療、特にインスリン治療に関する現状の問題点や今後の可能性について。

座 長：杏林大学医学部 第三内科 教授 石井 均 先生

特別講演Ⅰ：順天堂大学医学部 内科学 准教授 弘世 貴久 先生

特別講演Ⅱ：山梨大学医学部付属病院 内科学講座第三教室 教授 小林 哲郎 先生

★日本糖尿病療養指導士認定更新認定更のための研修単位<第2群> 1単位

★西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位（LCDE：2単位）

事務局よりお知らせ



④ 認定試験受験料納付について

平成20年2月17日（日）東京農工大小金井キャンパスで実施します。受講され受験資格のある方には、すでに事務局より試験のお知らせが送付されています。受験料は1月15日まで、お近くのコンビニ（24時間）で納付が出来ます。お早めに納付をお願いします。期間を過ぎて納付をされても事務局では確認に数日間の日水が必要になり確認が困難となり受験が出来ないことがあります。

発行 NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会 事務局 〒185-0012 国分寺市本町3-10-22
 オリентプラザ 402 (TEL) 042-322-7468 (FAX) 042-322-7478
<http://www.nishitokyo-dm.net> E-mail: w_tokyo_DM_net@ybb.ne.jp